

知識の花弁

三田メディアセンターだより

No. 7
2016春



撮影：新 良太

三田メディアセンターの 3つの図書館と遠隔書庫

知って良かった ツール & サービス
KOSMOSがさらに便利になりました!

コレクションの広場
博物誌関係資料

図書館の舞台ウラ
他キャンパスからの資料取り寄せ(塾内便)

貴重書紹介
『聖職者の著作について』

スタッフレポート
「イギリスでくずし字を読む」

主な出来事 (2015.10-2016.3)



慶應義塾図書館

三田メディアセンターの 3つの図書館と遠隔書庫

人文・社会学系の学生が学ぶ三田には、「図書館（新館）」「図書館旧館」「南館図書室」の3つの図書館があります。また、山中河畔には「山中資料センター」と呼ばれる保存書庫もあります。蔵書の総数は270万冊を超え、170以上のデータベースを利用することができます。これだけの資源を使わずに卒業してしまうのはもったいないと思いませんか?! 図書館員を味方につけて、メディアセンターを使いこなしましょう。

図書館（新館）

三田キャンパスのメインライブラリーで、学習用図書、レファレンスブック、雑誌・新聞があります。文学部の学部図書も置かれています。

様々なテーマに沿った展示が行われています



1F 展示室

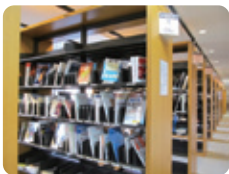
ふだんは自由に見ることができない貴重な資料も展示されます。お見逃しなく!

図書以外にも多様な資料があります



1・3・4F データベース

電子ジャーナル、データベースなどの電子資源を利用できます。電子資源には、keio.jp 経由で学外からも利用可能なものも多くあります。



3・4F 雑誌



1・2・3F 新聞

それぞれのカウンターでみなさんをお待ちしています

本の貸出・返却はメインカウンターで。学外から取り寄せた資料の受け取りはILLカウンターになります。



1F メインカウンター/ILLカウンター

データベースの利用、資料探して困ったらこちらへご相談ください。



1F レファレンスカウンター

雑誌・統計・新聞・マイクロのご相談はこちらへ。



3F 雑誌カウンター

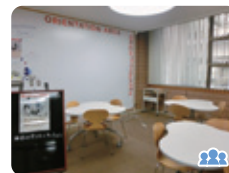


探している資料が慶應にない場合は、国内外の大学から取り寄せたり、直接利用しに行くことも可能です。

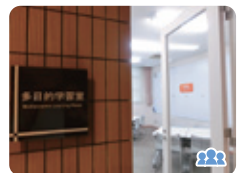
春には図書館やデータベースの使い方を説明するオリエンテーションが開かれます。秋の三田祭前は、多くの学生のみなさんが壁面のホワイトボードを使い、活発な議論を交わっています。

みんなで話し合って勉強したい時

タイプの異なる閲覧席があります



1F オリエンテーションエリア



1F 多目的学習室

一人で静かに集中したい時



2F 西閲覧室



2F 大学院閲覧室



3F 雑誌閲覧席

南館図書室

一番新しい図書室です。南館の地下2～4階にあり、入口は地下3階にあります。法務研究科の資料、法学部・商学部の学部図書が置かれています。



B3F 閲覧席

授業の担当教員が指定した資料です。館内のみでご利用ください。法務研究科以外のリザーブブックは新館2Fにあります。



B2F 法務研究科リザーブブック

様々な企業の社史が置かれています。



B3F 社史 (BC@20A)



図書館旧館

義塾創立50年を記念し1912年に建てられた図書館で、国の重要文化財に指定されています。洋書・視聴覚(AV)資料・和装本・学位論文・経済学部の学部図書などが置かれています。



CD・DVD・レコードなどを館内の機器で視聴できます。



3F 視聴覚(AV)資料

修士・博士論文が置かれています。



1F 学位論文



1F 和装本

一部の資料が仮移転しています

耐震補強・改修工事実施のため、2018年10月(予定)まで一部の資料を仮移転しています。これらの資料はスタッフの出納による利用となります。

申込方法など詳細は、図書館ウェブサイトを確認してください。
▶ <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/oldbuilding1.html>

請求記号	元の配架場所	移動後の配架場所
B@001-229	旧館 第1書庫 4-5F	➡ 綱町 別館(別館T)
EC@1A-7A	旧館 第1書庫 2F	➡ 女子高 別館(別館J)
1E-101E	旧館 第1書庫 2F	
和装本:215-246	旧館 第1書庫 B1F	➡ 学外書庫
洋新聞	研究室棟 下層	
準貴重書	旧館 第1書庫 B1F	➡ 女子高 別館(別館J)
CL	旧館 第1書庫 3F	➡ 研究室棟 下層

遠隔書庫 山中資料センター

三田メディアセンターでは、年に約3万5千冊の資料を受け入れています。増え続ける資料による書庫狭隘化の解消と資料保存を目的として、1994年に山梨県南都留郡山中湖村に開設されたのが山中資料センターです。白楽サテライトライブラリーの閉鎖にともない、2015年10月に100万冊規模の2号棟が建設され、1号棟・2号棟合わせて約150万冊を収容します。

昨年度は、白楽サテライトライブラリーに置かれていた、図書や官報、洋雑誌等の資料を移動しました。引き続き今年度は、三田に置かれている洋雑誌や議会資料、旧分類図書の移動を予定しています。移動作業中は騒音や一時的に資料をご利用いただけないことがあります。ご理解・ご協力をお願いします。

山中資料センターの資料は取り寄せて利用することが可能です! KOSMOSのリクエストボタン、図書館ウェブサイトのオンラインリクエスト、ILLカウンターにてお申し込みください。貸出の可否は資料によって異なります。詳しくは請求記号別貸出規則一覧でご確認ください。
(<http://kosmos-ext.lib.keio.ac.jp/info/callno/>)

2号棟の内部
集密書架にぎっしり資料が置かれています



1号棟



2号棟

おまけ

図書館内には絵画・彫刻などの芸術作品がたくさんあります。耐震工事のため旧館ステンドグラスは見ることができませんが、新館1階閲覧席の壁にも色鮮やかなステンドグラスがあります。是非一度ご覧ください!

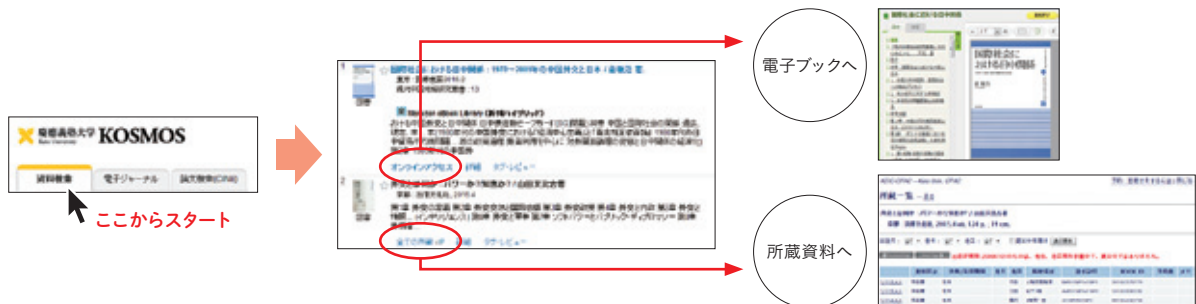
★図書館からのお知らせや、ちょっとした豆知識をtwitterで配信しています。▶ [@Keio_MitaLib](https://twitter.com/Keio_MitaLib)

KOSMOSがさらに便利になりました!

メディアセンターが所蔵する図書・雑誌ばかりでなく、電子ブック・電子ジャーナルや音声・映像資料、雑誌論文なども検索することができるKOSMOS。2016年2月に、検索機能をリニューアルしました。図書館のウェブサイトから、さっそく検索してみてください。

「資料検索」タブから、メディアセンターの資料を探ることができます

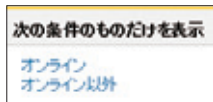
詳細検索画面では、AND/OR/NOTを指定してキーワード検索を行うことが可能です。図書や雑誌を探す場合は、「全ての所蔵」から、メディアセンター内の所蔵情報を確認することができます。電子ブック・電子ジャーナルを探す場合は、「オンラインアクセス」のリンクが表示され、画面から直接、資料の全文を閲覧することができます。(学内者のみ)



検索結果を操作する機能が増えました

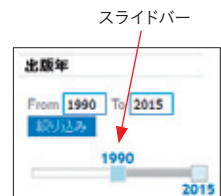
紙の資料、電子の資料を区別して絞り込むことができます

「今、電子ジャーナルで見たい」「紙の図書を借りたい」といった場合に、「オンライン」または「オンライン以外」をクリックすると、絞り込みができます。



「出版年」の幅を自由に選択できます

出版年を記入、またはスライダーを移動させることによって、検索したい年代の幅を自由に選択することができます。



「もっと見る」で絞り込み条件を指定できます

所蔵地区や資料種別、著者、言語などの絞り込みでは、「もっと見る」をクリックすると、複数の条件を選択して絞り込み条件を指定できます。



表示ページ内の検索結果を、My Shelfに追加できます

ページに表示されている全検索結果を、My Shelfに追加することができます。これまで通り、資料ごとに☆を指定して追加していくことも可能です。



My Shelfとは?

keio.jpアカウントまたはLibrary IDにてKOSMOSへログインした後、検索した資料の情報を取り込んで記録しておくことができる機能です。気になった資料をリストにしておき、レポートや論文執筆時の参考文献としてお役立てください。



KOSMOSの検索でわからないことがあれば、1階レファレンスカウンターにご質問ください!

コレクションの広場

博物誌関係資料： 荒俣宏旧蔵博物誌コレクションを中心に

自分の知らない世界がどうなっているか知りたいと思いませんか？

未知の世界を知りたい、見たいという願望は今も昔も世界共通です。21世紀の現在も人類は、惑星探査、有人飛行計画など未知なる宇宙に目を向けています。昔の人も同じでした。交通手段も未発達で、テレビやインターネット、SNS等もない時代、人々の未知の世界を知りたいという願望は博物学と呼ばれる学問分野の確立に貢献しました。博物学とは動物・植物・鉱物などの自然物の種類・性質・生態などを研究する学問で、ギリシャのアリストテレスによる研究以来、現代の科学につながる体系を形成してきました。博物学研究により刊行された博物図譜は、当時の人々が世界をどう捉え、どう理解していたか、その時代の知識や学識のレベル、特徴を示す鏡とも言えます。

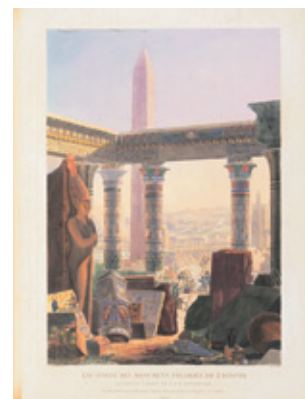
慶應義塾図書館（三田メディアセンター）では、西洋初の活版印刷本であるグーテンベルク聖書をはじめ、西洋の印刷本、特に木版、銅版、石版の図版を含む古版本を多数所蔵しています。それらの中でも代表的なコレクションの1つに博物誌資料コレクションがあります。このコレクションは、塾員で作家の荒俣宏氏が『世界大博物図鑑』（平凡社 1987-1994 全5巻・別巻2巻）の執筆のために収集した博物誌関係資料のうち、図書館に譲られた225点

を中心に、17・18世紀ヨーロッパの辞典や百科事典、その他の博物誌資料を加えたもので、質・量ともに充実したコレクションとなっています。荒俣氏は『世界大博物図鑑』刊行によって日本の博物学再興の祖とも言われ、収集した資料は16世紀から20世紀にかけて刊行されたヨーロッパの博物図譜を中心に、解剖学、文学、探検・紀行、民族誌、土木・建築、美術など多岐に渡っています。この荒俣宏氏旧蔵の博物誌資料が『荒俣宏旧蔵博物誌コレクション目録』として今年3月に刊行されました。厳選したカラー図版100余点と詳細な書誌事項を1冊にまとめたもので、貴重な博物誌資料を分野別に一覧することができます。

限られた地域に生息する動植物、見たこともない風景、自分たちと異なる生活・風俗の人々、それらに触れる唯一の手段が当時は博物誌資料でした。私たちが今、宇宙の映像を見るのと同じように、人々は当時の鮮やかで精密な図版に驚きと感銘を受け、未知の世界に心躍らせたのではないのでしょうか。

（筒井利子）

『荒俣宏旧蔵博物誌コレクション目録』はメディアセンターで所蔵しているほか、図書館のメインカウンターでも販売しています。（1部1,000円(税込)）



『エジプト誌』2版 バリ 1821-1830年
ナポレオン期フランスが誇る大図鑑



『哺乳類の記述』バリ 1843-1852年
世界で最初にゴリラの彩色石版図を掲載

図書館の舞台ウラ

他キャンパスからの資料取り寄せ（塾内便）

利用したい資料が三田メディアセンターになかった場合、他キャンパスのメディアセンターから取り寄せをすることができますが、資料がお手元に届くまでどんな経路をたどってくるか、ご存知でしょうか。

例えば、日吉メディアセンターの資料にリクエストをかけるとしましょう。日吉のスタッフは、予約のかかった資料を書架から取りだし、KOSMOS上の変更作業を行い三田行きの箱に詰めます。これは、この資料を日吉から移動をさせていることが、誰にでも分かるようにするためです。そして、この箱を塾内便と呼ばれるキャンパス間の送付物を運ぶ車に乗せます。この車は、毎日定期便で荷物を載せたり降ろしたりしながら、慶應のキャンパス間を図書館の資料はもとより、事務的な書類や、時には授業や行事のために使用される機器などの大型の物も載せて移動します。そして、塾内便が立ち寄るのは三田・日吉・SFC・矢上・信濃町・芝などの大学のあるキャンパスだけではなく、幼稚舎・志木高などの一貫教育校にも立ち寄ります。また、私たちメディアセンターの大切なパートナーである早稲田大学図書館にも立ち寄り、資料を載せて

移動します。

こうして、塾内便で三田に到着した資料は、スタッフによって箱から出され、資料が届いたことを利用者にメールでお知らせをし、予約棚に並べられます。その際、三田の予約棚に置かれていることが、KOSMOSで誰にでも分かるようにします。

利用者みなさんはボタン一つをクリックするだけでリクエストができますが、その裏側では意外にも多くの手間がかかっていること、マニュアル作業で進められていることに驚かれたことでしょう。

他キャンパスから三田に取り寄せた資料は、年間約54,000冊、1日平均約200冊、反対に貸し出した資料は約3分の1、年間約18,000冊になります。三田の資料は山中資料センター、外部書庫にも配架され、これらは宅急便で搬送されます。いずれの資料も可能な限り迅速にお届けし、みなさんの学習や研究のお役に立ちたいと思います。知の宝庫である三田メディアセンターをご活用ください。

（総務担当）





『聖職者の著作について』 ヨハネス・トリテミウス 初版 バーゼル 1494年

Trithemius, Johannes (1462-1516) Liber de scriptoribus ecclesiasticis

Basel: Johann Amerbach, 1494.

1v.; 30 cm. [120X@573@1]

安形 麻理 (文学部准教授)

ヨーロッパで初めて活字を使って印刷された本がラテン語の聖書だったというのは、納得のいく話だろう。それでは、それから50年も経たないうちに本のリストが出版されたと聞くと、いかがだろうか。なぜわざわざ、と不思議に思われる方もあるかもしれない。印刷術の登場は本の量を飛躍的に増加させ、知識や情報の流通の仕方に劇的な変化を与え、やがて人間の思考の様式や社会のあり方にまで影響を与えることとなった。とはいえ、本はまだ貴重品であり、購入できるのは王侯貴族や修道院などに限られ、そもそも字を読むことができる人自体が少なかった、そんな時代である。

今回紹介するのは、著者別に並べた本のリスト(集合書誌)である。この種の本としてはヨーロッパ最初の印刷本であり、近代書誌学の原点と呼ばれることもある重要な存在である。ドイツのシュボンハイムのベネディクト会修道院長であったヨハネス・トリテミウスが著したもので、1世紀から15世紀までのキリスト教の聖人や聖職者約1,000人が書いた約7,000タイトルもの本が収録されている。今のようにインターネット上で検索できる図書館OPACや各種のデータベースがない中、大規模な本のリストを作る作業がいかに大変かは、想像するまでもない。

リストは著者の年代順に並べられ、トリテミウス自身が最後の著者として収録されている(図1)。著者名と短い伝記に続き、著作一覧、各著作のジャンル、全体の巻数(記載がないこともある)、冒頭のフレーズ(ないことも珍しくない)が記録されている。著作のジャンルは、書簡(epistola)、本(libri)、説教(homilia)などであるが、後半のページでは、ジャンルにかかわらず「liber」となっている。トリテミウスの意図が印刷業者にうまく伝わらなかったのだろうか。

図1を例に説明すると、左ページの5つの赤い字(後から手書きで追加されたもの)が各著者の頭文字で、短い伝記が続く。右ページの1行ずつ改行された部分が著作一覧で、左詰めでタイトル、少し空白を空けてジャンル、また少し間隔をおいて巻数がローマ数字の小文字で示され、多くの著作では右端に冒頭のフレーズが示されている。左ページの下からがトリテミウスの項目である。「I」で始まっているのは、IとJを区別しないラテン語では「Johannes」は「Iohannes」と綴られるためである。修道院の規則や説教書、書簡など17書が挙げられ、有名な『写学生礼賛』(羅英対訳本はBT@022.23@T3@1を参照)もある。この本の翌年に出版された『ドイツ著名人目録』が14番目に挙げられているので、写本としてはすでに存在していたことがわかる。



図2 索引のページ

1,000人近くもの著者が300ページ弱に掲載されているとなると、必要な箇所をすぐに参照するための工夫がほしい。それが、4ページ目から始まる2段組のアルファベット順の著者索引で、何枚目の紙から始まるのかを示している(図2参照)。トリテミウスの場合は第139葉裏ページから始まるため、「139」となる。もちろん、本文の各表(見開きの右)ページにも連番が打たれている。写本は写すたびに1ページの字数行数が変わってしまうため、ページで参照



図1 トリテミウスの項目がある本文ページ

する意味はない。同じものを大量に印刷できる印刷本ならではの工夫といえる。16世紀になると、今の本のようにページ番号を印刷することが一般的になってゆく。

トリテミウスは、先行するリストを基礎に、さまざまな情報を統合し、これほど大規模なリストを完成させた。主な情報源となったのは、シュボンハイムの修道院図書館である。実はこの図書館もトリテミウスの功績の一つで、彼が1483年に修道院長になったときには40冊程度だった蔵書を、修道院長の座にあった23年間の精力的な収集により、2,000冊以上の蔵書を誇る、当時のヨーロッパ有数の図書館へと成長させたのである。彼が修道院の改革に熱心であり、修道士たちが学問を修めることが必要だと考えていたことの反映である。自伝にも、キリスト教徒にとって有用なあらゆる主題・科学に関する写本と印刷本から成るものと誇らしげに記している。短期間にこれほど本を増やすことができたのは、修道院長としてベネディクト会の修道院を訪れる機会を存分にいかし、訪問先の図書館に同じ本が複数あれば、買い取りや、自分の蔵書の重複本と交換することを申し出たためだと言われている。

さらに、彼の人的ネットワークも役立ったのは間違いない。トリテミウスは南西ドイツのトリッテンハイム(この地名をラテン語化したのがトリテミウス)で生まれた。ハイデルベルク大学に学び、1482年に修道院に入ると翌年には21歳の若さで修道院長となった。学僧として尊敬を集め、ツェルティスやブラント、ロイヒリン、ポスティウスなどの当代一流の人文主義者との親交があった。トリテミウスの学識は幅広く、科学や、現代では魔術やオカルトの領域に入ることにも関心を持っていた。1500年頃に彼が暗号で書いた暗号論 *Steganographia* は長らく未解読だったが、1998年にコンピュータを使った分析によってついに解読され、注目を集めた。

今回紹介した慶應義塾図書館所蔵本は、日本に2冊あるうちの1冊である。抜けている冒頭のフレーズが同時代の筆跡によって補記されたり、著者索引が修正されている場合があり、実用的に使われていたことが伺える。

本書が「すべての」本を収録する世界書誌の夢を刺激するのは当然だろう。16世紀のゲスナーの『万有書誌』にも多大なる影響を与えた。貴重書室には、本書だけでなく、『万有書誌』やペイルの『英国主要作家要覧』など、書誌の歴史をたどるうえで欠かせない資料が収蔵されている。


 スタッフレポート

「イギリスでくずし字を読む」

倉持 隆 (スペシャルコレクション担当)

私は2015年9月から12月までの3ヶ月間、図書館研修のためイギリス・ノリッジにあるセインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館を拠点に、イギリスを中心に研究図書館をまわりながら、日本関係資料の所蔵状況や研究利用の様子を見聞してきました。主に大英図書館、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 (SOAS) の図書館をめぐり、その他にはオランダのライデン大学図書館などを訪ねましたが、いずれの図書館も日本にいないのではないかと錯覚するほど充実した日本関係資料が所蔵されていました。

これらの図書館には、現代書はもちろんのこと、日本の古典籍 (和漢の古書) も数多く所蔵されています。例えば、大英図書館では約3,800点、ケンブリッジ大学図書館では約2,500点の古典籍を収録した網羅的な目録も刊行され、オックスフォード大学ボドリアン図書館附属日本研究図書館 (以下、ボドリアン図書館) も約1,000点の和古書を所蔵しています。これらの資料の中には、ケンペル、シーボルト、アーネスト・サトウといった日本史の教科書にも登場する人物が日本から持ち帰ったものも多く、イギリスに所在する古典籍が日本とヨーロッパとの交流の歴史の中で形成されてきた様子がかがえます。一方、量は多くありませんが、古文書 (歴史資料) も残されています。ボドリアン図書館に所蔵されている慶長18年 (1613) に徳川家康が発給した朱印状は、イギリス東インド会社に対して日本への渡航と交易を許可したもので、超一級の歴史資料です。これらの資料はまさに日本とイギリスの交流の歴史を物語るものなのです。そのほか、江戸時代の浮世絵や絵本といった絵画資料の所蔵が多いのも特徴の一つといえます。絵の美しさは万国共通で、言葉がわからずともその価値が理解され、ヨーロッパにもたらされたのでしょう。



オックスフォード大学ボドリアン図書館本館

多くの日本古典籍が所蔵されているイギリスでは、日本に関する研究も盛んに行われています。私は日本史を専攻し、現在も三田メディアセンター所蔵の古文書整理を担当していることから、訪問先の一つであるSOASで依頼を

受け、日本の文学や歴史といった分野を専攻している研究者・学生を対象に、和古書や古文書に書かれたくずし字を読むための講習会を担当しました。日本研究が盛んなSOASの図書館には、くずし字を読むために必要な日本語の辞書類も揃い、参加者のなかには実際に中野三敏著『くずし字で「百人一首」を楽しむ：古文書入門』(角川学芸出版、2010年)といった入門書に購入希望を出して勉強しようとしている人もいました。この講習会は日本語が母国語でない人が対象のため、くずし字の概要や辞書の引き方、筆で書かれた文字の読み方について、初歩的な部分を中心に、できるだけわかりやすく解説しました。変体仮名と呼ばれる仮名の異体字の一覧を紹介し、明治時代の「読方入門」(小学校の国語のテキスト、まだ変体仮名が残っています) から始まり、百人一首の写本、江戸時代の離縁状である三下り半 (離縁状の定型文が三行半であったことからこのように呼ばれるようになりました)、商家の「奉公人請状」(奉公人の身元保証書) など、印刷本と手書きの文書、漢字と平仮名、文学作品と歴史資料といった形で、さまざまなくずし字をプリントで見てもらいました。質疑応答でもいろいろな意見や感想が出され、そこで強く感じたのは、やはり日本語を母国語としない人がくずし字を学ぶ難しさです。私は「資料に書かれた筆の動きを真似して鉛筆で書いてみると、文字の形がはっきりして読みやすくなる」という話をよくしています。これは自分もそう教わり、長年実践してきた方法で、筆で書かれた太い文字が細い線となることによって、筆の動きがクリアになり、解読しやすくなるのです。しかし、講習会での感想は、自分たちはそもそも日本語を書くことが難しいので、真似して書いてみても文字のイメージに近づくことが難しい、というものでした。日本語を話せたとしても書くのは難しい。確かに当然のことで、そこまで思い至らなかったことを反省するとともに、海外で日本研究に取り組む研究者、学生の悩みを一步深く理解できた感じがしました。

講習会では、言語の壁を乗り越え、日本研究に熱心に取り組む研究者や学生達の姿が印象に残りました。くずし字という純和風分野で、今回のように充実した国際交流ができるとは思ってもよらないことでした。国際的な分野を学んでいる人はもちろん、日本的な分野を学んでいる学生のみならず、世界の大学に目を広げてみると、新たな発見や交流の可能性が見つかるかもしれません。



SOASでのくずし字講習会の様子

主な出来事 (2015.10-2016.3)

第27回慶應義塾図書館貴重書展示会 「活字文化の真髄 日本の古活字版と西洋初期印刷本」開催

2015年10月7日～13日、丸善・丸の内本店ギャラリーで貴重書展示会が開催されました。今回のテーマは「活字」。慶應義塾図書館の蔵書から、出版文化史上でも最高水準を誇る15世紀後半～17世紀前半の活字本が一堂に会しました。戦国武将にも愛された優雅で権威ある書体の古活字版や、ドイツからフランス・イタリアと時代と地域を追って変遷する西洋活字など、遠く世界の東西で同時期に黄金時代を迎えた活字文化のエッセンスを感じる企画となりました。



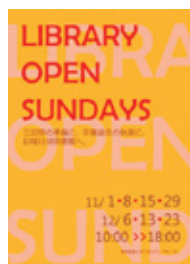
3年半ぶりに「グーテンベルク聖書慶應本」を特別展示

三田メディアセンターは、現存が確認されている48部のグーテンベルク聖書のうち、その1部をアジアで唯一所蔵する図書館として知られていますが、2015年12月の「文学部創設125年記念展示モノがたる文学部 資料に見る人文学研究(12月2日～18日)」において、3年半ぶりに「グーテンベルク聖書慶應本」の特別展示を行いました。9日から12日の期間中に約2,000名の見学者が訪れました。記念展示には国宝「秋草文壺」や重要文化財「相良家文書」「日吉・矢上古墳出土品」も出品され、慶應義塾の所蔵する文化財を一度に見学できる貴重な機会となりました。

図書館1階に「多目的学習室」オープン

2016年1月、新たな学習スペースが1階奥のラウンジ横にオープンしました。これまでの閲覧室とは趣を変え、グループで議論や意見交換ができるように可動式の机と椅子、壁面にはホワイトボードを設置しました。通常は自由に使える閲覧室として利用できますが、図書館主催のオリエンテーションや図書館所蔵の貴重書を使った授業等のイベントに使用することも考えています。

16席の限られたスペースですが、学生のみなさんの新たな知的コミュニケーションの場として活用されることを期待しています。



秋の日曜開館、昨年に引き続き今年も実施します

三田メディアセンターでは学生のみなさんの図書館へのご要望を聞くために、昨年度さまざまなアンケートを行いました。その回答でもっとも多かったのが開館時間の延長、特に日曜日の開館希望でした。そこで昨年は11月から12月の日祝日のうち7日を試行的に開館したところ毎回300人前後の方が来館されました。この時期、平日の来館者は2,000人前後ですので300人を多いと見るか少ないと見るか、という意見の相違はあるかと思いますが、日程等を再検討した上で今年度も引き続き日曜開館を行う予定です。

■表紙の絵画について

図書館に入ると大きな壁画に迎えられます。この壁画は設計者の楳文彦氏が、宇佐美圭司(1940-2012)氏に依頼して制作された『やがて、すべてが一つの円の中に』(1982)です。円の連なりとそこに展開する人型が描かれています。宇佐美氏の作品『路上の英雄 No.3』(1967)も2階東閲覧室に展示しています。館内の芸術鑑賞もお楽しみください。



編集後記

図書館を身近に感じながらご活用頂けるように、ハードとソフトの両面から図書館をご案内しました。どの記事にご興味をもたれましたか? 利用方法の理解が深まり、みなさんの知的好奇心を刺激するような内容であれば

幸いです。私たちは学習・研究に必要な資料、環境を整え、よりよいサービスを心掛けて、みなさんのご利用をお待ちしています。雨の日も風の日も頑張っている、塾内便のおじさんの応援もよろしく願います!

編集・発行 慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1625 FAX 03-5484-7780
発行日 平成28年4月1日
印刷 有限会社 梅沢印刷所
<http://www.mita.lib.keio.ac.jp>
Twitter: @Keio_MitaLib